

# 生活と学習に関する意識・実態調査

本校の教育にいつもご理解ご協力をいただきありがとうございます。学校では、6学年における学力・学習状況調査の結果をもとに、児童の生活や学習における実態や意識について分析、考察し、その結果を今後の指導に生かしたいと考えております。この調査は6年生で行いますが、1年生から5年生までの学習の積み上げの結果が表れています。そこで、分析から明らかになった本校の児童が苦手としているところを各学年で重点的に指導してまいります。そして、6年生では残りの5ヶ月間で不足している基礎的基本的事項をしっかりと習得させ、中学校へ向けてのよいスタートが切れるよう準備していきたいと思っております。ご意見やご感想がございましたら、ぜひ、学校へお寄せください。

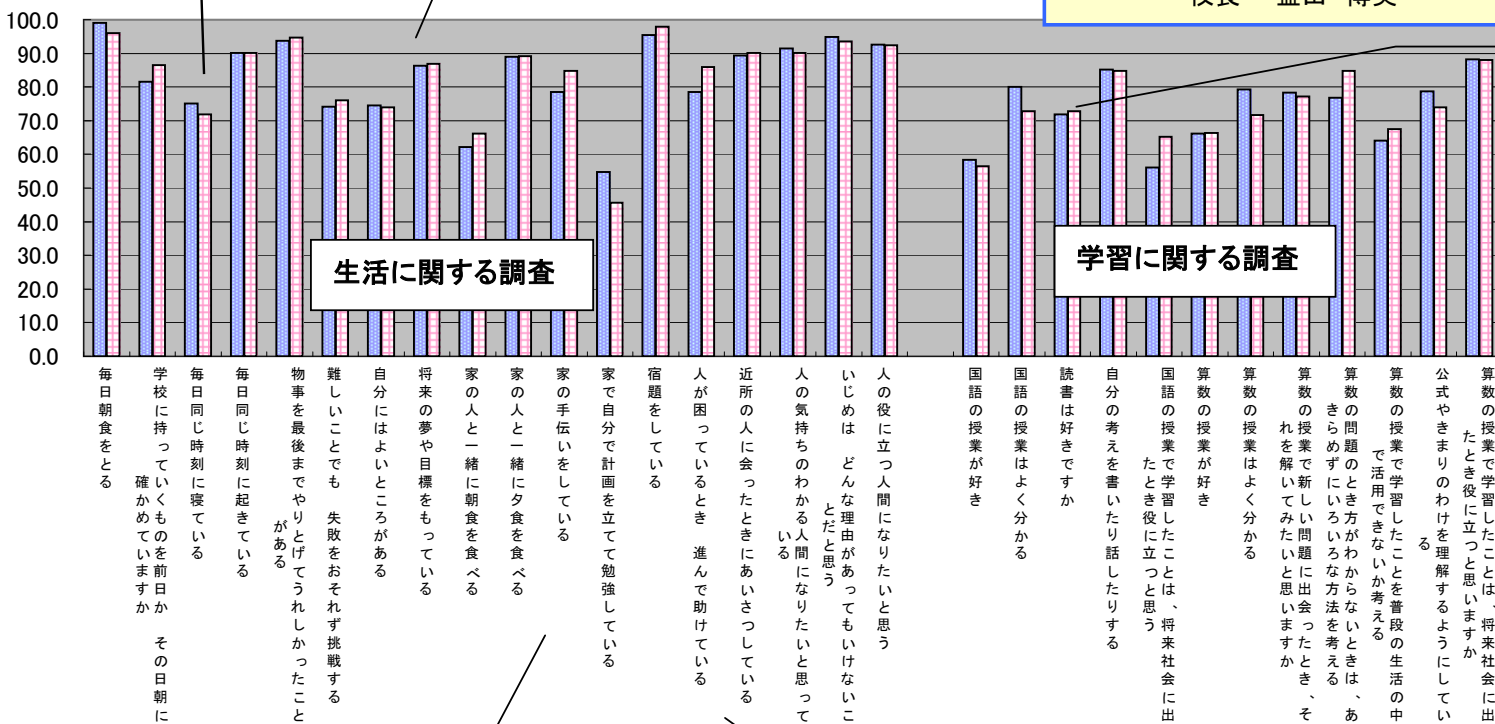
校長 益田 博美

意識調査については、紙面の都合上項目を絞らせていただきました。

基本的な生活習慣が定着している児童が学力調査でもよい結果を残しています。

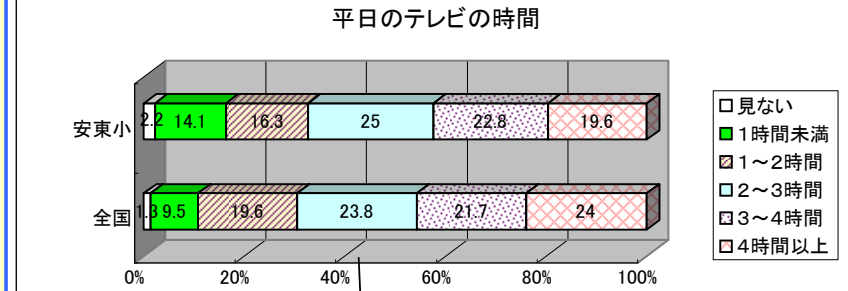
本校で「難しいことでも、失敗をおそれず挑戦する」「将来の夢や目標をもっている」と答えた児童の割合が高いのは、家庭でも学校でも自分自身が認められているという安心感があるからです。

■ 全国 ■ 安東小

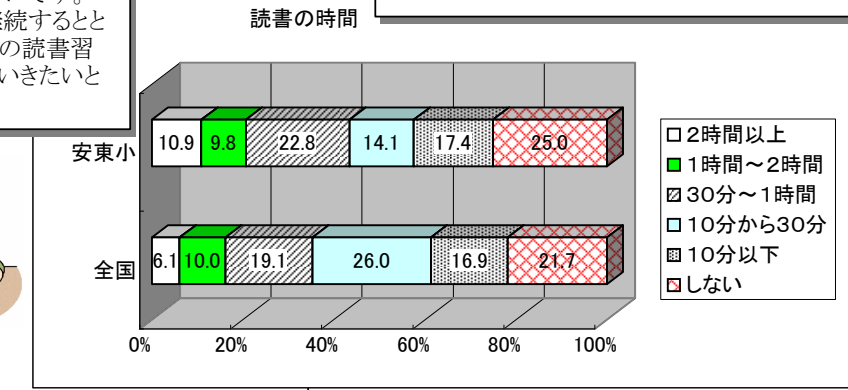


生活に関する調査

学習に関する調査



テレビを見る時間が3時間以上の児童が42.4%で、約半数に上ります。家庭できまりをつくるなどしてもう少し時間を減らしていければと思います。

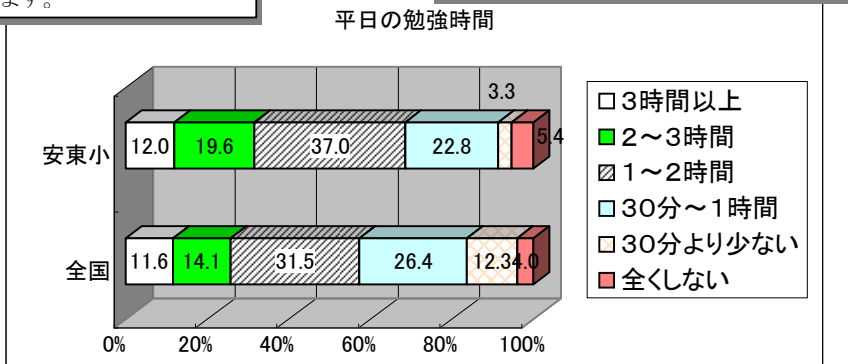


読書を好きだと答えた児童が多いです。朝読書を継続するとともに家庭での読書習慣もつけていきたいと思えます。



算数に関しては、普段の生活の中でも課題意識をもっている児童が多いことがわかります。学習形態としてグループ学習による指導を多く取り入れたり、操作活動などで具体的に考えさせたりします。

国語力を伸ばすために、読書はとて有効な手段です。「しない」と答えた児童は、全国平均より多くなっています。子どもたちの読書習慣がつくよう学校でも指導しますので、ご家庭でも声をかけていただきたいと思います。



全国に比べ、家庭学習の習慣が身につけていることがわかります。これは、中学校に行っても高校に行っても大切な力となります。これからは、時間だけでなく、学習内容も重視していきます。また、「しない」という児童には、個別に指導をしていきます。

家庭で手伝いをする事は、家族の一員としての強い自覚をもたせます。継続してできるよう家庭でもはげましていただきたいと思います。

「あいさつができる」「困った人を見たら助ける」子どもたちが多くいます。人間関係を構築するための条件を安東の子どもたちはもっています。

## 生活と学習に関する意識・実態調査より

安東小学校と全国の結果を比較してみると、生活・学習ともに概ね全国の結果と同様の傾向にあります。

全体的にみると、朝食、就寝、起床といった基本的な生活習慣は概ね定着しているようです。「家の人と一緒に朝食を食べる」「宿題をしている」「家の手伝いをする」などでは肯定的な意見が全国平均よりも高い数値を示していました。これは、家庭の教育力の高さを示していると言えます。家庭でしっかり子どもたちを育てていただいているので「難しいことでも失敗をおそれず挑戦する」「将来の夢や目標をもっている」などの項目での肯定的評価が高いのだと思います。前向きによりよく生きようとする子どもたちの姿が見えてきます。このよさがさらに学習面でも発揮できるよう学校でも一人ひとりの学習の状況をしっかりと把握し、それぞれにあったきめの細かい指導を行っていきたく考えています。



安東小学校ホームページアドレス  
http://www.yasuhigashi-e.edu.city.hiroshima.jp/